

好生館だより

2006.2

第4号



緩和ケア病棟正面出入口の外観風景

佐賀県立病院好生館

基本方針（目標）

1. 患者さま中心の信頼される医療
2. 質の高い最新の医療
3. 県民医療の確保と地域協調の医療
4. 教育の重視と人材の育成
5. 経営努力による健全経営の実現

館長挨拶



館長
河野 仁志

皆様、良い年を迎えられたことと思います。この度、「好生館だより第4号」をお届けできることになりました。

県病好生館は昨年より地域医療支援病院としての活動を開始しており、地域の診療所や医院や病院の先生方から患者さまの紹介をいただき、また逆に好生館から患者さまを紹介させていただくことを奨励いたしております。今年も県民の方々や先生方からいつでも安心して利用いただける病院を目指して頑張りたいと思います。

好生館という名前を安政5年(1858)に佐賀藩第10代藩主鍋島直正公より頂戴してから今年で148年を数えることとなります。この間、県民医療を担ってきた伝統を守り今年も職員一同全力で取組むつもりです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

目次

- 館長挨拶 1ページ
- 好生館ニュース：緩和ケア病棟より 2ページ
- 診療科紹介：内科 2ページ
- 診療科紹介：外科 3ページ
- 豆知識：知って得するお薬の話 3ページ
- 看護科だより(職場紹介)：4階東病棟、4階西病棟 4ページ
- 健康講座：認知症 5ページ
- 栄養管理だより：栄養サポートチームの活動について 5ページ
- 病病・病診連携：地域医療連携室の紹介 6ページ
- 新任医師の紹介 7ページ
- 外来医師一覧表 8ページ

佐賀県立病院好生館

〒840-8571 佐賀市水ヶ江一丁目12番9号

TEL 0952-24-2171(代表)

FAX 0952-29-9390

<http://www.koseikan.jp/index.html>



【好生館ニュース】

(緩和ケア病棟より)

緩和ケア病棟

部長 牧野 毅彦

皆様、こんにちは。当館緩和ケア病棟は、開設から8年が経過しました。これまで、800人以上の方とその御家族様が貴重な時間を過ごされました。私たちスタッフも、医療者として関わらせていただきましたが、その経験は言葉に尽くせないほど大きな財産になっています。

平成16年4月、当館は病院機能評価機構の認定を受けました。平成17年6月には、緩和ケアの質を検証するために緩和ケア病棟だけ

の機能評価を受けました。その結果、認定を受けることができました。これも、今まで私たちに多くの経験と問題解決能力、感動を与えてくださった人々のおかげと感謝しております。また、ボランティアの皆様のお支度も大きな要因だったと思います。

今後取り組んでいくべき課題も明らかになりました。緩和ケアを地域に広めていくこと、もっと多くの方に理解していただくこと、在宅緩和ケアを進めていくことなどです。また、ケアの質をより一層高めるために、主任看護師が緩和ケア認定看護師の資格の取得を目指して研修に行っています。

医療を取り巻く環境は大きく変化しようとしています。私たちはこれからもチーム一丸となって緩和ケアの実践を行っていきたいと考えております。



【診療科紹介】

内科

副館長 権藤 久司

好生館内科では、平成17年10月より内科外来の診療体制を一部変更いたしましたのでご紹介いたします。

(1) 医師の専門部門を示すことにいたしました。

医療の進歩はめざましく、診断や治療など、病態に応じた適切な医療を提供するには、専門的知識が必要となっています。そこで、好生館内科では、それぞれの専門家（呼吸器、糖尿病・内分泌、腎臓・透析、血液、胃腸、肝胆膵、神経内科）に相談しやすくするため、各医師の専門部門を示すことにいたしました。なお、心疾患や高血圧の診療は循環器科が担当しております。

もちろん、他の疾患の場合は診療しないという姿勢ではありません。肺の調子も今ひとつだけれど、最近、胃腸の調子が悪くなったというように、複数の箇所ですべて調子が崩れることがあります。そうした場合には、新たな病気の専門家に相談したり、それぞれの専門家に診て戴くことを考えております。内科の医師全体で（チーム医療）患者様の治療を担当させていただきます。「かかりつけ医」の先生から、好生館でこの部分を詳しく診て貰ってきてくださいと言われた場合にも、相談しやすくなるかと考えております。

なお、各専門部門では、以下の項目について積極的に取り組んでいます。

- ・呼吸器：胸部異常陰影の検査と診断、肺炎や間質性肺炎の診断と治療、肺がんの診断と治療、在宅酸素療法による治療と指導など。

- ・糖尿病・内分泌：糖尿病の診断と治療および指導、糖尿病教室、甲状腺疾患など。
- ・腎臓・透析：蛋白尿や血尿に関する検査と治療、急性腎不全や慢性腎不全の診断と治療、透析療法を含む各種血液浄化療法など。
- ・血液：赤血球や白血球、また血小板数異常の診断、出血傾向の診断、リンパ節腫脹の診断と治療、白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫に対する治療、造血幹細胞移植の適応についてなど。
- ・消化器（胃腸）：胃・腸の精密検査、癌やポリープに対する内視鏡治療、食道静脈瘤に対する治療、炎症性腸疾患の治療など。
- ・肝胆膵：肝機能異常の診断、B型やC型肝炎の診断と治療、肝臓癌や胆道癌の診断と治療など。
- ・神経内科：脳梗塞の診断と治療、物忘れ外来、パーキンソン病の診断と治療、頭痛・めまい・てんかんの診断と治療など。

(2) 総合内科でも対応いたします。

自分の病気がどの専門家に診てもらったらいいのか分からないことがあります。そうした場合には、「総合内科」として、当日の担当医師あるいは権藤医師が診察させていただくことに致しました。原因がわからない熱、どうも体調がおかしいなどがこれまでの主な相談内容でした。どういう疾患が考えられるのか、今後どんな専門家に相談するのが一番いいのかなどについて相談できる窓口になります。

(3) 胃カメラや超音波検査が予約なしでも可能になりました。

これまで上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）や上腹部超音波検査は、緊急の場合を除き、予約のために一度受診していただいております。10月から、時間的にお待たせする可能性もありますが、かかりつけ医の紹介状持参の方は可能な限り、予約なしでも受診当日に検査を実施させていただくことにいたしました。



【診療科紹介】

外科

外科部長 矢野篤次郎

好生館は佐賀県唯一のがん診療拠点病院であり、当科（成人外科）は癌の診療を中心にしています。実際、昨年の成人手術の約6割はがんの患者さまの手術でした。癌だけではなく小児の外科など高度で専門的な知識や技術が必要な領域を好生館外科は担っていますので、適切な医療を県民の皆さまに提供すべく疾患や臓器別に専門医によるグループ診療を行っています。以下に、疾患・臓器別にスタッフを紹介致します。

消化管（食道、胃、大腸）担当は折田博之医長を筆頭に池部正彦医長、白石猛医長の三人です。食道癌の集学的治療（手術と抗がん剤、放射線治療を組み合わせる最大の効果を得る治療）や胃癌・大腸癌の外科手術をはじめ、手術が困難な患者さまの抗がん剤治療までほぼすべての癌治療を行っています。さらに、早期の胃癌・大腸癌に対しては腹腔鏡手術という小さな傷で回復の早い手術も取り入れています。

呼吸器担当は私、矢野（外科部長）と庄司文裕医師です。患者さまの半数は肺癌で、診断から治療まで一貫した最新の医療を提供出来るよう、内科、外科専門のスタッフが連携しています。市町村や職場の検診で肺に異常を指摘されましたら、お気軽に受診下さい。また、肺の一部が破れて胸の中に空気がもれる自然気胸をはじめとする良性的疾患は可能な限り胸腔鏡を用いて小さな傷で、入院期間の短い手術を行っています。

肝臓、胆道、膵臓は河野仁志館長と林洋医長が担当しています。難治性の癌が多く、手術のみならずラジオ波治療や抗がん剤治療など積極的に診療しています。

乳腺疾患は石田真弓医師が担当しています。乳癌は社会的にも関心が高くインフォームドコンセントがとくに詳細に求められますが、一人一人時間をかけて納得のいく丁寧な診療を提供しています。

小児外科は、廣瀬龍一郎医長（小児外科部長）と山田耕治医長が担当しています。系統的に小児の外科疾患を診療し、いつでも急患を受け入れることが出来るのは佐賀県では唯一当館のみです。

最後に、当館は救急救命センターを設置しており癌診療ばかりではなく急患手術も数多く手がけています。救急患者さまは全身的な診療が必要なことが多く、外科スタッフ全員で担当しています。



【豆知識】

知って得するお薬の話

薬剤長 今村 平

◎ 病院薬局にはお薬はどれ位あると思いますか

治療に使用する為に内服薬、注射薬、外用薬、消毒薬、その他を含めて約1800品目あります。この中から患者様の症状や生活習慣に合わせて先生が処方されています。例えば、忙しい患者様には飲み忘れを防ぐ為に1日3回服用より1日1回のお薬、車の運転や高い所で作業する患者様には眠気が少ないお薬、過去にアレルギーや副作用を起こしたお薬などを考えられて処方されます。そのためにも自分の判断でお薬をやめないで、医師、薬剤師に相談してください。

◎ 口腔内崩壊錠ってなんですか

錠剤のまま飲み込むのではなく、口の中で速やかに溶けるので唾液のみでも服用できる錠剤のことです。ただし、口の粘膜から吸収されることはないため、唾液又は水と一緒に飲み込みます。物を飲み込むことが苦手な患者様、水分制限のある患者様には適しています。現在、胃・十二指腸潰瘍治療薬、睡眠導入薬、片頭痛治療薬、統合失調症に使用するお薬、排尿障害に使用する

お薬等に用いられています。

◎ 禁煙補助剤ってなんですか

タバコを止めたいと思っている人は、タバコの代わりにニコチンガム、医師より禁煙が必要と診断され、禁煙意志の強い患者様にタバコの代わりにニコチンパッチを使用します。いずれも禁煙によるタバコを吸いたいという欲求、いらいら感、集中力低下を和らげる効果があり、禁煙を容易にすることを目的に作られたお薬です。

ニコチンガムは薬局・薬店で購入できます。ニコチンパッチは医師の指導の下に行うようになっています。

いずれも自費になりますが、タバコを止めたい人、止めなければいけない人は挑戦してみてください。

◎ インフルエンザが流行したら

インフルエンザの予防の基本は流行前のワクチン接種です。

インフルエンザに感染した場合は、抗インフルエンザウイルス薬が使用されますが、最近では予防投与ができるお薬として、タミフルカプセル75mgが認められました。

予防に用いる場合は、インフルエンザ感染症患者の同居家族または共同生活者で高齢者や基礎疾患を有する人を対象としています。ただし、感染症患者に接触後2日以内に投与を開始するとなっています。自分が予防投与の対象となるかは、かかりつけ医に相談してください。

【看護科だより】

(職場紹介) 4階東病棟

病棟師長 江頭恵美子

整形外科病棟はベット数56床からなり、スタッフは医師8名、看護師24名、看護助手2名で病院の基本理念「病む人、家族、そして県民のところに添った最良の医療」を目指し、思いやりのあるより質の高い看護サービスを実践しています。

入院患者様の特徴としては、高齢者の骨折・高度外傷・交通事故（心臓病・糖尿病・透析等の合併症のあるリスクの高い患者様）、悪性腫瘍による病的骨折や麻痺がある場合、認知症等の問題を抱えた患者様が多いところです。入院患者様の約半数が70歳以上の高齢者であり、転倒転落には十分注意し、新潟の地震の時に問題になった深部静脈血栓症や床ずれ・ひ骨神経麻痺等の防止に努め、寝たきりや寝かせたきりにならないように援助しています。毎週火曜日にはリハビリ室の理学療法士とのカンファレンスを行い、水曜日には部長回診のあと、医師・看護師・理学療法士・地域医療連携室の担当者とのケースカンファレンスや退院・転院についても話し合いを行っています。従来は診断から治療・リハビ

リの最終段階まで1つの病院で行う病院完結型の医療でありましたが、急性期病院として早期リハビリが開始され、平均在院日数の短縮のため、リハビリ継続の出来る地域の医療機関への転院が必要となります。

今や地域との医療連携が不可欠であるため、県内の整形外科医師・看護師・理学療法士等に呼びかけ平成17年4月第一回佐賀整形外科地域連携ネットワーク（愛称：ホネット）が発足され活動しています。その中でケースカンファレンス・勉強会・情報交換を行いながら、患者様が転院後も継続したリハビリが行なえ、安心できるようにお互いに協力して行きたいと思っています。整形外科の患者様は、明るく見えても多種・多様な悩みを抱えています。その悩みをいかに表出して貰い、少しでも力になれるようにかかわっていきたくと思っています。



【看護科だより】

(職場紹介) 4階西病棟

病棟師長 北島 加代

私達の病棟は、腎臓病や糖尿病の患者様が、主に入院されている内科病棟です。皆様もご承知のように、腎臓病も糖尿病も慢性的経過をたどることが多く、食事療法と何らかの治療を受けられています。腎臓疾患では人工透析治療、その準備のための内シャント手術を受けたりされます。また、糖尿病ではインシュリン自己注射治療を受けられる方もおられます。

そのような患者様にとって退院は、嬉しさと共に「これからも、ちゃんとできるかな？」など、不安と大きな荷物を背負ったような気持ちになれる方も少なくありません。退院された患者様の多くは、地域の病院での継続治療を受けられています。その先生方とも連携をとりながら、患者様のために日々頑張っております。

そのような患者様にできうる限り、前向きに取り組んで頂きたく、今年度の病棟目標は、

『プロ意識をもち、忙しい時もゆとりある笑顔で対応し、明るい雰囲気のある病棟にしよう！』を第一に掲げています。とは言いながら、折々の患者様との関わりの中で、思いやる気持ちを充分伝えることができず、いやな思いされている方がいるとしたら、申し訳なく思います。

当館の基本理念は、【病む人、家族、そして県民のところに添った最良の医療をめざします】です。このことをしっかり心にとめ、「県立病院に入院してよかった。」「4階西病棟でよかった。」と、ひとりでも多くの方から聞けるよう、力を合わせていきたくと思っています。これからも、よろしくお願いたします。





【健康講座】

『認知症』早期受診のすすめ

神経内科部長 高島 洋

現在、日本にはおよそ190万人、85歳以上の4人に1人の割合で認知症のお年寄りがいるといわれています。認知症は病気であり、原因によっては治るものや早期に発見・対処することで症状の進み方をおくらせるものもあります。そこでいつ、どの程度の変化がみられたら、病院にいけばよいかということになります。以下に『家族のための認知症を疑うチェックリスト(本間昭監修)』を示します。

(1) 曜日や月がわかりますか。(2) 前と同じように道がわかりますか。(3) 住所・電話番号を覚えていますか。(4) 物がいつもしまわれている場所を覚えていますか。(5) 物がいつもの場所がないとき、見つけることができますか。(6) 洗濯機やテレビのリモコンなどの電気製品を使いこなすことができますか。(7) 自分で状況にあった着衣ができますか。(8)

買い物でお金を払うことができますか。(9) 身体の具合が悪くなったわけではないのに、行動が不活発になりましたか。(10) 本の内容やテレビの筋がわかりますか。(11) 手紙を書いていますか。(12) 数日前の会話を自分から思い出すことができますか。(13) 数日前の会話の内容を思い出させようとしても難しいですか。(14) 会話の途中で言いたいことを忘れることがありますか。(15) 会話の途中で適切な単語がでてこないことがありますか。(16) よく知っている人の顔がわかりますか。(17) よく知っている人の名前を覚えていますか。(18) その人たちがどこに住んでいるか、仕事などがわかりますか。(19) 最近のことを忘れっぽくなりましたか。

それぞれの質問について、本人の現在の日常生活と1年前の状態を比べて変わらない場合2点、多少悪くなった場合1点、とても悪くなった場合0点の点数をつけて下さい。合計24点以下の場合、認知症の疑いがありますので、かかりつけ医に相談されるか、好生館を受診されて下さい。

【栄養管理だより】

「栄養サポートチーム」の活動について

栄養サポートチーム小委員会委員長(外科医長) 折田 博之

好生館での栄養サポートチームについて紹介します。「チーム医療」とは医師に加え看護師、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、管理栄養士等の多職種のスタッフが集まり栄養管理等の問題に取り組むことです。

もちろん、病気の治療は担当医が中心に行われますが、このような治療がより有効に行われ、病気から早く回復するには栄養状態が良くなければいけません。最先端の薬や手術だけでは決して良い医療は行えないのです。医師だけでなく多職種の「和」が質の高い医療の提供につながると考えています。

経済的に恵まれ飽食の時代といわれて長く経ちますが、病院では栄養不良の患者さまをたくさん見ます。栄養が不良であるから病気に罹ったり病気のため十分栄養が摂れなかったりするからです。

私たち栄養チームは、週1回病院職員全員を対象とした栄養の勉強会を開いたり、カンファレンスなどを行っていますが、最も力を入れているのが栄養サポートチームの病棟回診です。実際に食事が摂れない患者さまや栄養学的な問題を抱えている患者さまのもとに直接行き、各々の職種のスタッフが知恵を絞って問題解決に努めています。また必要に応じて他の医療スタッフの協力を要請します。さらにチームで食事が摂れるよう患者さまを励ますことも大切だと考えています。

好生館は、2005年2月には栄養サポートチーム専門療法士(日本静脈経腸栄養学会)の実地訓練施設としても認定されました。今後、館外からの方々も含めた勉強会等も開催し、当館の入院患者さまだけでなく地域の皆様のお役にたてるよう活動を広げていくことにしています。



【病病・病診連携】

地域医療連携室の紹介

地域医療連携室主査 西山 保美



各医療機関が機能分担して、患者さまにより適切な医療を提供するため、当館では、平成17年4月に「地域医療連携室」を設置し、地域医療機関との病病・病診連携が円滑に行えるよう、それを支援する業務を行っています。

室長は館長が兼任し、事務2名、看護師1名を配置しています。

スタッフ紹介



室長
河野 仁志

主任看護師
江副 和代

主査
小杉 淑子

主査
西山 保美

「地域医療連携室」の活動

当館は、よりよい医療を提供するために「かかりつけ医」と協力・連携して専門的な医療を担当する「地域医療支援病院」としての役割を担っています。

そのための医療連携の窓口として、紹介元医療機関との密接な連携を図るために種々の業務を行っています。

●「紹介患者さま専用窓口」に関すること

紹介状をお持ちいただいた患者さまに対するサービスに努め、紹介医には主治医からの返書とは別に、FAX等により事務的にも必ず状況を報告する等、地域医療機関との連携調整役を行っています。

●開放型病院に関すること

●FAXによる紹介患者カルテ事前準備（平成15年1月開始）

●転院援助に関すること（平成15年1月より開始）

●紹介患者返信FAX

●地域の医療従事者への研修機会である「病理診断カンファレンス」「地域医療研修会」などの開催に関する業務

●連携先への情報提供

●紹介率などの患者情報に関する統計業務

●地域医療支援病院委員会の開催に関する業務

●その他 病病・病診連携に関すること



平成17年4月～12月 採用医師一覧表（医員を除く）

診療科	氏名	顔写真	専門分野	診療科	氏名	顔写真	専門分野
内科	権藤 久司 出身大学 九州大学		日本内科学会認定医 日本血液学会指導医・認定医・評議員 日本造血細胞移植学会評議員 骨髓移植推進財団(骨髓バンク) 九州地区運営委員	泌尿器科	塩田 真己 出身大学 九州大学		泌尿器科一般
	富永 正樹 出身大学 産業医科大学 大学		一般、呼吸器 日本内科学会認定医・専門医 日本呼吸器学会専門医 日本呼吸器内視鏡学会専門医 日本医師会認定産業医	整形外科	濱田 貴広 出身大学 鹿児島大学		一般整形 外傷一般
	河口 康典 出身大学 山梨医科大学 大学		肝臓、消化器 日本内科学会認定医	放射線科	今井 詩乃 出身大学 佐賀医科大学 大学		総合画像診断(特に婦人科領域) 放射線学会専門医
外科	林 洋 出身大学 山口大学		日本外科学会認定医・専門医 日本消化器外科学会専門医 消化器外科(肝、胆、膵など)	脳神経外科	増岡 淳 出身大学 佐賀医科大学 大学		脳神経外科学会認定医 脳神経外科全般
	池部 正彦 出身大学 九州大学		日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医 インフェクションコントロールドクター認定医 日本食道学会評議員 消化器外科(食道、胃、大腸)	麻酔科	島川 勇介 出身大学 佐賀医科大学 大学		麻酔一般
	庄司 文裕 出身大学 九州大学		日本外科学会専門医 呼吸器外科(肺、縦隔など)	循環器科	江頭 泰博 出身大学 九州大学		循環器一般
産婦人科	田中 智光 出身大学 佐賀医科大学 大学		産婦人科一般 更年期障害等の漢方治療 マンモグラフィ認定読影医 日本産科婦人科学会専門医 日本産科婦人科学会会員 日本産科婦人科内視鏡学会会員	心臓血管外科	坂口 昌之 出身大学 佐賀医科大学 大学		心臓血管外科一般 日本外科学会認定医
小児科	市丸 智浩 出身大学 秋田大学		アレルギー 小児感染症 小児呼吸器疾患 日本小児科学会専門医 日本アレルギー学会専門医 インフェクションコントロールドクター	救命救急センター	井上 克一 出身大学 自治医科大学 大学		救命救急
	人見 知洋 出身大学 佐賀医科大学 大学		アレルギー 免疫 肥満細胞		坂西 雄太 出身大学 佐賀医科大学 大学		救命救急
皮膚科	権藤 寿喜 出身大学 佐賀医科大学 大学		皮膚科一般	病理検査科	森 大輔 出身大学 大分医科大学 大学		外科病理学 日本外科学会認定医

外来医師一覽表

(平成18年2月1日現在)

区 分		月	火	水	木	金	
内 科	午 前	総合内科	榑藤 久司	榑藤 久司		榑藤 久司	
		呼吸器(肺)	嬉野 紀夫	富永 正樹	永田 正喜	富永 正樹	永田 正喜
		肝臓・胆道 ・膵臓	重松 宏尚		川添 聖治	川添 聖治	重松 宏尚
			河口 康典		河口 康典		
		消化器(胃・腸)	中原 伸	緒方 伸一	河口 康典	緒方 伸一	中原 伸
		血液	松石 英城	柴田昌一郎	松石 英城	柴田昌一郎	(榑藤 久司)
		腎臓・透析	富吉 義幸	三根 誠		富吉 義幸	三根 誠
		神経内科		高島 洋			高島 洋
糖尿病・内分泌	後藤 伸		後藤 伸	後藤 伸			
外 科	午 前	白石 猛	矢野篤次郎	新患当番医	山田 耕治	林 洋	
		新患当番医	折田 博之		石田 真弓	石田 真弓	
		廣瀬龍一郎	庄司 文裕		新患当番医	池部 正彦	
			新患当番医			新患当番医	
眼 科	午 前	(西村 知久) 大野新一郎	西村 知久 大野新一郎	大野新一郎	西村 知久 大野新一郎	西村 知久 大野新一郎	
産婦人科	午 前	(婦人)	野見山 亮 田中 智光	野見山 亮 西田 純一 田中 智光	当 番 医 (新患・急患のみ)	西田 純一 田中 智光 野見山 亮	当 番 医 (新患・急患のみ)
		(産)					
小児科	午 前	市丸 智浩 人見 知洋	稲田 成安 人見会美子	市丸 智浩 稲田 成安	市丸 智浩 人見 知洋	稲田 成安 人見 知洋	
	午 後	(アレルギー外来)	(予防接種)	(乳児検診)		(アレルギー外来)	
	午後(時間外)	前田 寿幸	稲田 成安	人見 知洋	人見会美子	前田 寿幸	
耳鼻咽喉科	午 前	手 術	宮崎 純二 恒富今日子 鈴木久美子	手 術	宮崎 純二 恒富今日子 鈴木久美子	宮崎 純二 恒富今日子 鈴木久美子	
皮膚科	午 前	武下 泰三 榑藤 寿喜	武下 泰三 榑藤 寿喜	武下 泰三 榑藤 寿喜	武下 泰三 榑藤 寿喜	武下 泰三 榑藤 寿喜	
泌尿器科	午 前	徳田 倫章 狩野 武洋 塩田 真己	徳田 倫章 狩野 武洋	手 術	徳田 倫章 塩田 真己	手 術	
整形外科	午 前	佛坂 俊輔	手 術	佛坂 俊輔	手 術		
		濱田 貴広		前 隆男		前 隆男	
		力丸 俊一		力丸 俊一		力丸 俊一	
		野口 康男				野口 康男	
		前 隆男		濱田 貴広		佛坂 俊輔	
放射線科	午 前	今井 詩乃	梶原 哲郎 今井 詩乃	井上 昭宏	梶原 哲郎 井上 昭宏	今井 詩乃	
脳神経外科	午 前	坂田 修治	増岡 淳	坂田 修治	手 術	前田 健二	
精神神経科	午 前	原 富英	原 富英	原 富英	原 富英	原 富英	
循環器科	午 前	石橋 裕二 江頭 泰博	林田 潔 田中 直寛	石橋 裕二	心 カ テ (急患のみ)	林田 潔 江頭 泰博 田中 直寛	
心臓血管外科	午 前	手 術	樗木 等	手 術	樗木 等 内藤 光三	手 術	
麻酔科	午 前		牧野 毅彦				
緩和ケア科	午 前	牧野 毅彦				牧野 毅彦	

※ 救命救急センター 藤田尚宏、佐竹義泰、山下友子、井上克一、坂西雄太

